令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県央会場

科目　⑪保護者との連携・協力と相談支援

◆　今回のテーマは常に気を配る身近な内容で、「バイスティックの７原則」という本の内容を学びました。一つひとつのテーマがとても大切で、忘れてはいけないことばかりでした。その一つが「非審判的態度」です。ジャッジをしない、親の考えを尊重するという内容に、気をつけないといけないと感じました。何気なく言ってしまっているかもしれないと思い、これからはより気をつけて保護者との関わりを持ちたいと思います。

◆　保護者とともに歩んでいくという考え方が大事であることを理解した。子どもをほめることが保護者の生き方をほめていることになることがよく分かった。一人ひとりの子どもの良いところに気づき、保護者に伝え、ほめることが保護者の自信につながるし、信頼関係を築くことにつながっていく。保護者に対しての苦手意識やマイナスイメージをなくし、些細なことでも丁寧に伝え、思いやりを持って関わることを大切にしたいと思う。

◆　自分が子育てをするうえで、子どもをほめられることが認められたという自信になるということが良く分かります。ほめる、認めるということは保護者支援に欠かせないし、傾聴、受容、共感的理解が保護者との信頼関係につながる大事なことだと思いました。自分のコミュニケーションスキルについてもとても考えさせられ、見直していきたいです。子どもと保護者とともに学び歩んでいくことが子育て支援なのだと思いました。

◆　今まで、子育て支援は悩んでいる保護者にどれだけ寄り添いサポートできるかが重要だと思っていたが、良い子育てや参考になる接し方をしている保護者がいたら自分にも取り入れていくべきであること、何かの問題があって悪く感じるような部分のみを話すのではなく日頃の良いところも伝え、日常的に信頼関係を構築していくと良いことを学べた。子育てをほめることは保護者の生き方をほめることと同じという言葉もとても心に響いた。

◆　保護者との連携、協力を円滑に進めるには、保護者との信頼関係の構築がもっとも重要だと思いました。そのためには保護者と子どもに共感し、互いの気持ちを肯定的に捉えることが必要で、保護者の思いを受け入れ、また、支援員の思いを正しく伝えることが信頼へとつながっていくのかなと思いました。子どもたちに良い支援ができるように、日々意識しながら保護者との信頼関係を築いていきたいと思います。